

【第3種郵便物認可】



「大同団結」で難局越え

東京の復帰運動

【東京支社】東京電美会（池田秀秋文化広報部長）の文化講演会が8日、東京・四谷の主婦会館であり、「東京における日本復帰運動」と題して、右田昭進さん（84）＝神奈川県藤沢市在住、奄美市名瀬芦花部出身＝が講演した。右田さんは「世紀の民族闘争」と言われた奄美群島の日本復帰運動の中で、奄美出身者の果たした役割は復帰に懸ける地元の熱い思いを中央政府や国際世論に強く訴え、広範な国民運動にまで盛り上げる力となった。それは現地の闘いと共に奄美群島の日本復帰実現の二大原動力であった」と強調。中でも紆余曲折、組織の存続さえ危ぶまれた本土の復帰運動が「団結し続けた大きな要因の一つは東京を拠点とする全国奄美連合本部の昇暲隆（曙夢）委員長の『小異を捨てて大同団結を』の呼び掛けにあった」と証言した。

名瀬出身 右田昭進さん語る

右田さんは1929（昭和4年）生まれ。著書多数。講演に先立ち、主催者側の英辰次郎東京奄美会会長は「奄美の日本復帰運動は近世における奄美人（あまみづ）の原点（なづか）と思われたい」と述べた。講演は次期の大筋を分けて語られた。

▽混迷期・行政権分離後の生活援護が主体の活動（1945年8月～47年12月）▽胎動期・復帰運動の準備態勢着々進む（48年1月～50年12月）▽運動第

世論喚起へ故郷と共闘

1期・講和条約交渉から運動の立ち上がりが見込まれていた。その後、「昇暲夢（曙夢）文学者、奥山八郎（日弁連会長）、金井正夫（衆議院議員）、谷村唯一郎（最高裁判事）ら立時、日本でも一級の著名な大先輩たちがシンボルの存在と運動の先頭に立たれた。また、この運動にも右



講演後、花束を受け取る右田昭進さん（中央）

和条約発効後は条約3条廃棄を基本に旧大島郡行政回復の運動（52年5月～53年8月）▽運動第4期・タレス声明後も奄美全島語の早期復帰を要求（53年8月～同12月）。この中で、右田さんは1950年に川上嘉、伊東隆治両国会議員が国会で「奄美問題」を論議したことを挙げて、中央での復帰運動の「実働部隊」の口火となったのは学生会の街頭署名で、当時は「奄美」を「えんぴ」と呼ぶ人もいたほか、後に首相となった佐藤栄作氏らから激励を受けた記憶があるという。

また、この運動にも右

健康願いな

す乳た節だ日俗

全員決定へ連携密に

名瀬職安

名瀬公共職業安定所（折元浩二所長）の2013年度大規模就職対策会が13日、奄美市の同庁舎会議室で開かれた。市内の各企業や団体から約200名が参加し、就職の機会を密に提供することをめざして連携を強化する方針が示された。

聞

客船
二



港。関係者がセレモニ
域一丸となつて取り組

アヒ